

令和 6 年度事業計画に基づく結果報告（1 旭川志峯高等学校）

1 学校組織（改組、再編等）

[学校経営方針]

- 1-1 生徒、家庭、教職員が誇りを持てる日常生活を構築し、「志峯で学べて」「志峯に通わせて」「志峯に勤務できて」よかったと言える学校を目指す。
- 1-2 次代を担う生徒につけさせたい力を育成できる特色ある教育課程を編成し、新しい教育を展開する。
- 1-3 I C T 教育の充実を図りさらに教員一人ひとりの力を集結し、組織的かつ協同的な教育活動を行い、個別最適な学び環境を構築し学力向上を目指す。
- 1-4 生徒、家庭、地域、職員同士から信頼されるため信用失墜行為の根絶を図る。また地域に根差し、地域を拓き、地域に開かれた学校となるべく地域連携を強化する。
- 1-5 ベテランの経験、中堅の企画構想、若手の情熱が絡み合い、ともに働く教職員集団の協働システムを構築、向き合うのではなく、同じ方向に＜目標＞を向いて連携する。

(結果等)

今年度から、有為な人材育成を掲げ、二刀流・三刀流への挑戦を支える 2 エリア 5 コース（【特進エリア】選抜コース・グローバルコース、【進学探究エリア】進学コース・ライセンスコース・スポーツ教育コース）の本格始動となった。
収容実員は 407 名（1 年生 145 名・2 年生 122 名・3 年生 140 名）となり、昨年度の収容実員（442 名）を大幅に下回る結果となったが、今後も、本校のこれまでの伝統と教育理念を踏まえつつ、安心安全な教育活動を展開していく。

2 教育課程

[各コース]

2-1 旧特別進学コース

(結果等)

- ・コースが変わる過渡期で 2 学年と 3 学年の生徒だけのコースということもあり、コースとしての動きを例年よりもとらず担任任せになってしまい、コースとしてのサポート体制が十分ではなかった。
- ・コースとしては所属する生徒が少ないながらも、難関大学を目指す生徒は複数人いるため、一人ひとりの生徒に対して、コースとしてはもちろんのこと、多くの先生方のサポートをいただきながら指導を行う必要がある。

2-2 旧ライセンスコース

(結果等)

検定取得に向けてしっかり取り組んでいる生徒がいる一方で、検定当日に欠席する生徒がまだおり、検定取得に対する意欲が低い生徒に対する指導は、今後も根気強く行っていく必要がある。あらためて検定取得の目的を確認させ、進路開拓や進路実現のための手助けになるということを理解してもらう必要がある。

2-3 旧スポーツ教育コース

(結果等)

- ・今年度、2・3 学年の旧スポーツ教育コースとなり、全体的に落ち着いた一年間でまだまだであるが、重点目標達成に近い状況であった。
- ・三育を目指すには体育以外の面でなかなか難しい状況。挨拶等の礼節の実施は感じられるが、知育・徳育分野の比重を上げる必要を感じた。
- ・コースでより良い人間形成を目指す活動は体育の授業が中心だが、日常の学校生活では担任が中心である。また、部活動に所属をしている生徒は部活動顧問が管理をしているが、今後はより情報共有を円滑にしていかなければならない。

2-4 旧未来創成コース

(結果等)

- ・外部講師の協力を得て、モノづくりツアーへ参加し、木工製品の製作に取り組んだ。これらを通して旭川の地場産業であるモノづくりへの理解を深められた。
- ・地産地消をテーマに座学と実習を行った。地元の食材がどのように調理され、消費されるのか、郷土料理とは何かを知り、また、旭川市の栄養士の方に「栄養講座」を行ってもらった。ショクタンで学習した内容は、3年時に「フードデザイン」を全員が選択しており、そこにも繋がる内容で実施した。

2-5 新選抜コース

(結果等)

1年生は選抜コース単独のクラスではなかったため、選抜コースを意識した生活について指導する際に苦慮する部分があった。その中で、コース総合の時間や昼休みの時間を活用し、受験を意識した生活を送らせるための指導を行うことができた。今後は受験に対する意識付けの徹底と、学力向上だけではなく様々な活動を経験させることで、様々な受験方式に対応した準備を進めていきたい。

2-6 新グローバルコース

(結果等)

- ・異文化交流を通じて、主体的にコミュニケーションをとる姿勢が向上したが、実践的な英語力については2年次以降の取り組みを強化し、英語力向上に努めていきたい。
- ・タイ研修や異文化交流会などに参加して、多くの生徒が異なる価値観を理解する意識が高まったと感じる。

2-7 新進学コース

(結果等)

- ・基礎学力の面は、教科指導の範囲で行なっており、それ以上の指導には至っていない。
- ・探究活動を深めるために、Edv pathを導入し、生徒の実態を数値化するという取り組みとオンラインで講師と対面で話をすることができた。

2-8 新ライセンスコース

(結果等)

北海道中小企業家同友会の方に「就労にあたる意識」や「働くにあたっての地域現状」などをテーマにご講演いただき、生徒一人一人に興味を持てることを考えさせることができた。また、個人で調べた後にグループで情報収集・まとめをさせ、全体発表まで取り寄せた。この経験を2年次で活用し、さらに探究活動を深めたい。

2-9 新スポーツ教育コース

(結果等)

- ・情報を収集する力・処理する力（ICT活用能力）を養うため、総合探究の時間にインターネットを通して情報収集を行った。また、発表会のプレゼン、資料作成にパワーポイントを使用し、総括することができた。
- ・コース総合の中で規律を守ることや主体的に学習に取り組むことに対し、徹底的に指導してきた。3年間かけて社会に貢献できる人材の育成を目指していきたい。

3 教育環境

3-1 近年の記録的な暑さを受け生徒の健康面に大きな影響をもたらしていることから、教室等にエアコンを設置する。

3-2 教室等の配置整備や施設設備の環境整備及び修繕に努め、安心安全な教育環境を提供する。

(結果等)

- ・教室等 25 か所に空調設備工事を行った。
- ・外壁修繕工事、総合グラウンドの自動体外式除細動器の設置、の教育環境整備を図った。
- ・図書室の移設に伴い、図書等の移動・棚等の備品廃棄を行った。
- ・校舎の老朽化により、壁面の亀裂や破損、上・下水道の劣化等、修繕箇所が多数みられるため、計画的に工事を行わなければならない。
- ・次年度は、設置後 20 年以上が経過し老朽化している生徒用の机・椅子の更新を行う予定である。

3-3 情報化ネットワーク及び I C T 教育の推進に向けての構築を図る。

(結果等)

- ・今年度も ICT 委員会を中心に、1 年生への iPad 配布など ICT 教育の推進に向けた整備を行った。
- ・私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費）を活用し第 1 パソコン室のパソコン等の更改を行った。
- ・高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校 DX 加速化推進事業）が採択され旧図書室及び旧大会議室を探究ルームに改修しハイブリットシステムを導入した。
- ・次年度以降も ICT 教育設備整備費等補助金等を活用し ICT 教育推進に向けた取り組みを行う。

4 研究活動

4-1 教育実践の推進のために、教職員の研修体制の充実を図る。

4-2 個々の専門性を高める研究活動を図る。

4-3 外部研究機関と共同した活動を模索する。

(結果等)

進学において入試に小論文が課せられている大学等は増加傾向にあり、就職に関しても作文や文章表現などを課す企業があるため、進路で重要となる「小論文指導」についての研修を行った。

4-4 生徒の良き自己実現の達成を支援する知識・技能を得るために、外部団体の研修会等への参加及び校内研修会をより一層継続して実施する。

(結果等)

私学経営研修会で行われた「近時相次ぐ学校内事故の刑事判決を踏まえた危機管理の在り方」をテーマとした講演に参加し、職員会議後に校内報告会を開催した。次年度もより問題事案発生防止等の教育実践の推進に向けた研修を実施したい。

5 生徒支援

[学習指導]

5-1 個別最適な学びに対応すべくきめ細やかな学習指導をはかり、基礎学力の定着と学力の向上に努める。

5-2 生徒の学力向上のため、教職員の実践的授業力を高める組織的取り組みとして研修派遣や研修開催を強化。

(結果等)

- ・新しいコースがスタートした1年目だが、1年生においては同一科目での履修の為大きな問題点も無く進めることができた。2・3年生に関してはカリキュラムの関係上、分解授業などで実施率の差異が出ていた。これは固定時間割における曜日や校時による偏りから派生するものであり、調整期間を設けなければ解消できないと感じた。昨年よりは実施率（進捗率）は向上している。BLENDへの出席登録も年々入力忘れが少なくなりつつある。
- ・定期試験について、中間試験を単元テストに切り替え、期末試験を年2回実施したことについての検証をしなければならないが、実施できていない。今後、先生方にアンケートを取って振り返りをしていきたい。しかし、日常的な授業実施と単元毎に行われる確認テストなど、普段の授業の重要性を生徒に認知することができたのではないと思われる。

[生徒指導]

- 5-3 自校への誇りを持ち、地域や社会に貢献しようとする態度を身に付けるため、地域連携、中学校連携を推進。
- 5-4 安心安全な学校づくりを目指すため、全教職員の一致した生徒指導を心がけ、服装、化粧の身だしなみ指導を重点的に取り組む。（社会性を育てる）
- 5-5 多様化する生徒対応に応えるべく教育相談、体制の充実を図る。さらに本校としての支援の在り方を確立。
- 5-6 複雑化する問題行動を適切に対処すべく、報連相を強化し開かれた生徒指導を心がける。

(結果等)

- ・積極的な生徒指導の励行について、各々が実施に取り組み、必要性を理解できているので、継続して取り組む必要がある。これが生徒の言動に直接的な影響を与えられる工夫が今後の課題である。
- ・指導体制の徹底については、学年主任が全員生徒指導部であったため、スムーズにできた。若干感じるところとしては、担任指導が基本となる中、それを徹底しないで学年に回してしまうケースがあったので、担任や教科担任での指導から徹底していくことが重要である。
- ・懲戒規程について、後期から新規となり、不足している面もあるので、修正が必要と感じた。また校則については、骨子案はできてきたため、今後整備していく。

[進路指導]

- 5-7 生徒の進路実現に向けた全教職員による面談指導を確立し、生徒も教職員も一丸となった進路活動を推進。
- 5-8 総合的な探究の時間を活用し、インターンシップをはじめとしたキャリア教育を充実させ一人ひとりのより良い進路希望の実現の手助けを行う。

(結果等)

生徒・保護者満足度の向上を目指し、学校全体としてご協力をいただいて進路指導体制を整備することができた。情報提供はBLENDを介して定期的の実施し各種イベント等に参加した生徒は多くいたが、まだまだできることはある印象がある。個別の進路希望を的確に捉えて、担任や学年、コース、部活動等からも積極的にご助言いただき、より積極的に学校内のみではなく学校外と関わりをもち、進路への意識向上に繋げる仕掛けづくりを目指したい。また、刻々と変化する進路情勢の中で進路指導部も個別の進路相談の場面でより積極的に関わる必要がある。指定校推薦枠は着実に伸びているため、より戦略的に獲得を目指して動くべきであるため、生徒の希望や外部機関との関わりを含めたより積極的な活動に取り組む必要がある。

令和6年度の進路状況は、137名中、103名が進学（北海道教育大学・琉球大学・秋田大学等）、33名が就職（北海道警察・旭川市役所・消防本部・自衛隊等）し決定率は100%となった。進学では、旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部に多数合格したことで、国公立大学・短大合格者は13名となった。

5-9 学力向上および進路実績向上に向けて、大学連携を推進。

(結果等)

- ・ 11 月 6 日、旭川市立大学・旭川市立大学短期大学部と包括連携協定を締結した。
- ・ 3 月 26 日、北海道情報大学と高大連携協定を締結した。

[就職]

(結果等)

- ・ 個別対応（多様化）が増加傾向にあり、取り扱いの難易度が上がっている。また、進路活動をしていない生徒が散見された。
- ・ 昨年に引き続き 1 年生全員を対象に「職業観の育成」「進路選択・学習意欲の向上」を目指し、市内近郊の企業を訪問し、インターンシップを行った。終了後には事後報告会を開催し大きな教育効果を得た。

[健康管理指導]

(結果等)

- ・ 健康状態を説明できる生徒は限られている。問診票や質問を生徒の実情に合わせ改善していく必要がある。
- ・ 感染症での出席停止者は大幅に減少した。しかし、感染症を繰り返す生徒がいるが、個別の指導は行えていない。感染症対策の説明以外の方法や指導実践方法を検討したい。
- ・ 生涯にわたり進んで疾病予防行動・対策が出来る子宮頸がんワクチン講演会を開催した。健康に対する問題提起、疾病予防行動・対策を継続して考えたい。

[奨学金関係]

5-10 下記の種別の奨学生を採用し、本校への就学の支援を行う。

(結果等)

入試部及び課外活動担当者の積極的な募集活動により令和 7 年度の新入生は、A 特待 98 名、B 特待 8 名、C 特待 6 名を採用し、合計 112 名の奨学生を採用した。昨年度から S 種（A 特待＋年間 20 万円）の種別を設けたが該当者はいなかった。

6 点検・評価

6-1 分掌・学年ごとの年間計画を策定し、計画への取り組みを全体で共有する。また、総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、次年度への取り組みに繋げる。

(結果等)

学年、分掌、コース、教科単位で年間計画を作成し、年度末の職員会議において重点目標や実践事項に対する成果や課題及び次年度に向けた改善策について協議した。

6-2 保護者対象の学校評価アンケートを行い、学校に対する成果や要望等を把握し適正な対応につなげるよう努める。

6-3 生徒に対して、授業に対するアンケートを実施して授業の改善を行い、より良い学校運営を目指す。

(結果等)

BLEND のアンケート機能を利用して学校・授業評価アンケートを実施した。授業時間を利用し実施したため生徒の回答率は 79.8%まで上昇した。しかし、保護者の回答率は 49.3%と低い回答率となってしまったため、アンケートの集計方法、アンケート結果の活用について再度検討する必要がある。

6-4 評議委員会を開催し、地域住民や保護者の意見を参考にしながら効果的な改善につなげるよう努める。

(結果等)

教育に関する識見を有する方(学識経験者、保護者、地域住民等)を評議員として委嘱し、学校運営方針及び教育活動に関する評価について評議員会を開催し意見をいただいた。その評価結果を BLEND 及び HP 等で広く公表し、今後の教育活動に生かしたい。

[その他]

6-5 防災訓練等を実施する。

(結果等)

緊急災害時での避難経路の確認と避難場所への冷静かつ迅速な移動を行うことを目的に、避難訓練を実施した。当日は調理室から火災が発生したとの想定で迅速な避難が行われ、消防署の方からも講評をいただいた。

7 社会活動

7-1 地域清掃や除雪等のボランティア活動(自主的活動、部活動等)に積極的にに関わり、地域貢献を推進する。

(結果等)

3 学年全員が進路活動の一環として永山地区、本校周辺の清掃活動を行った。また、硬式野球部員が、永山を中心とした幼児・小学生対象の「永ちび」という野球チームに、野球の指導を行った。今年度は積極的にボランティア活動を通じた地域との連携が図られた。

7-2 ボランティア活動(自主的活動、部活動等)に積極的にに関わり、地域との連携を図る。

(結果等)

今年度も、全学年を対象に参加を募り、永山地区で毎年開催されている「永山屯田まつり」に参加した。総勢 55 名が「屯山(みやま)あんどん」といわれる、扇形をした弘前ねぶたの様な山車、楽器演奏、踊り子と 3 つに分かれ駅前通りや住宅地内の道路を練り歩いた。学校の PR を含め、地域連携、貢献等の考えを持つ機会の場となった。

7-3 学校施設・設備を地域の活動に開放し、地域との連携を図る。

(結果等)

運動施設を中心として学校施設を地域に開放した。次年度からは、より一層可能な範囲で地域との関係強化を図っていく。

8 国際交流

8-1 姉妹校協定を締結しているダーラーアカデミー校(タイ王国チェンマイ)と、オンラインでの共同プロジェクトやタイ現地での共同作業を通し多文化共生マインドを推進する。

(結果等)

- ・ダーラーアカデミーとのオンライン探究活動は、概ね予定通り実施できたが、接続が不安定になることが多く、期待していたようなオンラインでの交流は実施できなかった。また、当初は Teams を使って交流を試みたが、タイ側がグループに 1 つの端末だったため、資料などの共有が思うようにいかなかった。11 月からは、ラインのグループ機能を利用して、資料共有を実施したことでスムーズに出来た。
- ・タイ研修では、11 名の応募があり、8 名の生徒が参加した。概ね予定していた内容で実施できた。ダーラー側の対応がとてもよく、生徒たちは充実した時間を過ごすことが出来た。また、「ただ楽しかった」で終わらない研修を目標としており、探究活動などの取り組みを実施できたのは良かった。

- 8-2 旭川福祉専門学校と高専連携協定を締結し、日本語学科等で学ぶアジア圏 9 か国から来ている留学生と様々な国際交流を図り、英語力と国際感覚を養う。

(結果等)

- ・Global Café（異文化交流プログラム）を予定通り実施できた。旭川福祉専門学校側の参加者は毎回ばらつきがあったが、多い時で 20 名ほどおり、活発な交流ができた。1 年次の Global Café の目的は「様々な文化に触れる」としており、身近なトピックで会話を行い、日本と外国の違いについて知ることが出来た。
- ・夏休み中に東川で実施された「ユースフェス」にボランティアとして参加した。当日は海外の同年代の学生たちと一緒に活動し、国際交流会では司会を務めた。生徒たちにとって良い経験となった。

9 広報活動

[生徒募集対策]

- 9-1 各中学校訪問、進路説明会の参加、各塾訪問など、入学者増に繋がる活動を強化する。
- 9-2 オープンスクール、学校説明会、個別懇談による説明会の機会を増やし、きめ細やかな対応を行うことでイメージ向上を目指す。
- 9-3 ホームページ、SNS 及びメディア等を通して、本校の情報を逐次公開する。

(結果等)

- ・HP や SNS を利用して一定の成果を上げることができている。内容等について今後さらに充実させていきたい。
- ・学校通信「志峯」は校区の 3 つの市民委員会 7,000 戸あまりに回覧している。志峯高校の教育活動の啓蒙にも一定の成果を上げている。
- ・中学校での説明会は管理職を含め、教員の熱い説明が好評であった。中学校説明会などで本校の特色や新しくなったコースについて中学生やその保護者に広く知っていただくことができた。
- ・広報活動全体では工夫をしながら実践ができていると感じるが、新しい高校をさらにアピールしていくために、より工夫を凝らし全教職員で取り組んでいかなければならない。
- ・保護者相談会は好評であったため、管理職の力を借りながら、次年度もさらに充実させていきたい。
- ・オープンスクールや永山中と永山南中、さらには 2 年生を対象とした旭川中と比布中央の体験学習会などは内容をさらに充実させ、生徒募集に繋げていきたい。

10 その他

- 10-1 施設設備費等補助金などの外部資金を活用しながら、望ましい学校運営が図れるよう検討を加える。

(結果等)

- ・新コースで教育改革を進めている中、ご賛同いただいた旭川市民の方より総額 1 億円の寄付をいただいた。この寄付を基にグローバル育成奨学基金を創設し、次年度から運用を開始する。
- ・管理運営費補助金に加え過疎区域、小規模校経営改善促進費、JET プログラム活用推進加算が補助金の対象となった。
- ・例年同様、就学支援金、授業料軽減補助金、旭川入学一時金補助金、旭川市教育推進補助金、旭川市結核健康診断費補助金等の外部資金を獲得した。
- ・私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等 ICT 教育設備整備推進事業費）が交付された。
- ・高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校 DX 加速化推進事業）が採択された。

- 10-2 働き方改革（職員間の同一賃金、各種手当、休暇、労働時間等の問題点）及び課外活動のあり方等への対応を検討する。

（結果等）

今年度は、実態に即した諸規則の見直しや休暇、各種手当等の給与規則について改正することができた。今後も、引き続き働き方改革（職員間の同一賃金、各種手当、休暇、労働時間等の問題点等）及び課外活動のあり方（道教委が示す部活動の方針、部活動週16時間以内、休養日の設定等）への対応を検討し職場環境の改善を図りたい。

高校の部、以上

令和6年度事業計画に基づく結果報告（2 旭川志峯幼稚園）

（1）学校組織（改組、再編成等）

- ①子ども・子育て支援制度（施設型給付）の規定に基づき、適切な事務処理を遂行する。
- ②保育料等の無償化の規定に基づき、適切な事務処理を遂行する。

①施設型給付の規定に基づき、事務処理、必要書類等の作成に努めることができた。
②保育料等の無償化の規定に基づき、適切な事務処理等を行うことができた。

（2）教育課程（教育目標、カリキュラム編成等）

- ①幼稚園教育要領をもとに、それぞれの年齢に即したカリキュラムを編成、実施、評価、改善に努め、特色のある教育活動の実施に努める。

年度末に年間の保育カリキュラム内容を見直しを行い、次年度に向けて各学年に即したカリキュラム編成、月案、週案を作成し特色のある教育活動を行うことができた。

- ②小学校、地域との連携の推進に努める。

農業高校との交流学习については、計画通りに行うことができた。
老人施設とのふれあい、交流については、訪問することは出来なかったが、子ども達のメッセージ等をDVDにまとめて4か所の施設に届けることができた。
旭川市立永山小学校との交流については、園児と児童が直接交流を行ったり、学習発表会の様子を見学することができた。

- ③様々な体験活動や園外保育を通して自然の豊かさや季節感を味わうとともにコミュニケーション能力の育成を図る。

各学年の園外保育については、計画したすべての場所に行くことができた。様々な場所に出かけた際に草花、昆虫等に触れ親しむことにより自然の豊かさを感じることができたり、季節感を味わうことができた。

- ④五感を働かせた造形活動に取り組み、感性教育の推進に努める。

主体性を尊重した創造性豊かな感性教育を行うことができた。

- ⑤園庭や運動場、畑など屋外環境の充実を図り、豊かな外遊びによる体育や心の教育の推進に努める。

園庭、運動場、畑それぞれの環境整備と点検を行い、子ども達が好きな遊びを安全に伸び伸びと遊ぶことができる環境設定、保育活動を行うことができた。

- ⑥特別支援教育の充実に向け、職員間の実践交流や研修を深め、指導力の向上に努める。

特別支援教育の充実に向け、引き続き支援児の個々の成長記録を作成するとともに特別支援会議を行い、教職員全員で課題、支援方法等話し合いを行うことで共通理解に役立てることができた。

- ⑦農園を活用した栽培活動で知育、徳育、食育の育成に努める。

農園での活動（栽培、収穫、お料理等）など直接体験を通して季節感を味わうことができた。

（3）教育環境（施設・設備、工事計画等）

- ①運動場（グラウンド）における除草等の環境整備と管理、水はけ整備を行う。

運動場（グラウンド）の整地、除草剤等の環境整備、木の伐採と管理に努めることができた。

- ②農園の適切な活用と管理に努める。

農園の管理にあたり事前に計画を立てて整備を行い、色々な作物を栽培し収穫や調理等、食育に活用することが出来た。

③園庭芝生の手入れ、草刈りを行い、環境整備に努める。

園庭の草刈りは定期的に行い、遊びの環境を整えることができた。

④老朽化した暖房器具を計画的に順次取り換える。

老朽化した暖房器具（ストーブ）2台を計画通りに取り換えることができた。

⑤外壁のサイディング修繕を行う。

外壁のサイディングは破損箇所のみ修繕することができた。

⑥園庭の環境整備を行う。

園内の手洗い場の塗装塗り替え、床の修繕を行うことができた。

また、畑として活用していた場所を遊ぶ環境として活用できるように遊具や人工芝等を敷いて環境づくりを行った。

⑦安心、安全な保育環境作りに向け、施設整備の充実、指導力の向上を図る。

園児が安全に過ごすことができるように安全点検を行い、適切な保育環境づくり、施設整備を行うことができた。

（４）研究活動（委託研究事業）

①第66回北海道私立幼稚園教育研究大会道北ブロック大会他、様々な研修会積極的に参加する。

道北ブロック大会は、他の幼稚園に行き公開保育、研究協議に参加することができた。その他の研修会についても積極的に研修を受けることができた。

②全日本音楽教育研究大会（10月）において公開保育を行う。

全日本音楽教育研究会においては、各クラス公開保育を行い、全国各地からご参加いただいた方々より保育についての感想、助言をいただくことができた。また、年長組は市民文化会館で歌の合唱を行い、貴重な体験をすることができた。

③小学校とのギャップを無くすための幼保小連携のあり方についての研究を深める。

旭川市立永山南小学校主催の幼・保・小の連携を深める授業参観と懇談会に参加し、授業を参観した後に参加者（幼稚園、保育園等）の方々と懇談会に参加することができた。

④園内研修の充実を図り、指導力の向上に努めるとともに教育内容の共通理解を深め、教育観の共有化を図る。

月に一度特別支援会議を行い、課題や指導内容について話し合い、意見交換を行うことができた。園内においては、ケース会議等を行い、スキルアップを図っていくことができた。

（５）学生生徒等支援（就職支援、奨学金関係等）

なし

（６）点検・評価（自己評価、第三者評価、研修等）

①各行事については、前年度の反省を基に計画を立て、全職員で打ち合わせ、話し合いを行っている。事後は次年度に活かせるように反省記録を残し引き継いでいく。

各行事毎に前年度の反省を生かしながら計画を立て、事後は反省を行い記録化することができた。

② 2学期に保護者アンケートの実施、2学期末から3学期にかけて年度の自己評価を行い、それに基づき話し合いを次年度の教育に活かす。その結果を3月の園だよりに掲載し保護者にお知らせをする。

計画通りに2学期に保護者アンケート、3学期に教諭の自己評価を行った。その結果を3月に保護者宛お便りに掲載した。保護者からは、自然の豊かさや季節感を感じることが出来る保育内容に関して、教職員が一人一人園児へのきめ細やかな関わりについて高く評価をもらった。また、園会議の際に自己評価、保護者アンケートの結果について話し合いをし、次年度の教育に活かせること、検討が必要なことの話し合いを行った。

③作品展（永山公民館）の際に地域の方、保護者等に意見、感想を記入してもらい教育の充実に活か

作品展（永山公民館）の際に芳名帳や感想を記入する用紙を設置することで保護者、地域の方、卒園児の保護者等よりたくさんの意見、感想をもらうことができた。

④常に自己研修に努めるとともに研修会、研究会に積極的に参加し、園内研修で研修内容の交流を行い、教師としての力量を高める。

月末の職員会議では各行事やひと月の保育活動内容を振り返り、反省点や課題について話し合いを行い、次年度や次の月に活かせることが出来た。また、園児の成長と指導方法等についても話し合いを行い、職員全体で共通理解を図ることができた。

さらに、特別支援教育については、特別支援実践研修会、全教職員によるカリキュラム実践報告、園児一人ひとりの実態や課題を共有し、指導方法等について話し合いを行っている。

（7）社会活動

なし

（8）国際交流（学生生徒間・教員間の交流、連携、協定等）

なし

（9）広報活動（学生生徒等募集対策、ホームページ等）

①園開故事業の内容を見直し、教育課程内に位置づけられるよう、指導内容を整理して指導計画を作成する。

園開故事業の充実や向上に向けて、活動内容の見直しを行い新しい保育活動をたくさん取り入れていった。また、より多くの方々に園開故事業内容を知ってもらうためにInstagram、ホームページ等で活動内容を伝えることができた。

②園開故事業や自由開放日を通して幼稚園の教育内容を伝えていく。

園開故事業の際に園の教育方針、教育内容を伝えたり、その方針や内容に沿った保育を計画し、実践することができた。園での教育内容をより多くの方に伝えることができた。また、園開放に参加されたほとんどの親子が年間通して継続的に参加していただけた。

満3歳児入園については、随時相談を受け付け、入園についての説明を行った。

③私立幼稚園協会主催の作品展（アッシュ）への参加や地域（永山公民館）で作品展、発表会開催等を実施し、幼稚園の様子を保護者や地域住民に知ってもらう。

アッシュでは作品展示、永山公民館においては発表会を行い、地域住民に教育内容を伝えることができた。

④園だより、学年だより、ホームページ、Instagramを通して幼稚園の教育内容、行事の様子、普段の保育の様子、入園に関しての手続き等を更新し、発信していく。

Instagram、ホームページにて日々の教育活動の様子、保育スナップ写真を掲載、園だよりや学年クラスだよりなどで園の教育活動を発信することができた。

⑤募集ポスター、園開故事業ポスターのレイアウト等を検討し充実を図る。

募集ポスター、園開放ご案内ポスター、幼稚園要覧内容を教職員間で検討し、より見やすく工夫していった。

(10) その他

①旭川市立大学短期大学部、旭川農業高等学校及び永山の小中学校との連携が今後更に深まるよう努力をしていく。

永山地域の小学校とは、低学年の担任教諭と連絡を取りながら交流の機会を多く持つことができた。

旭川市立大学短期大学部の幼児教育学科と授業の他にボランティアで園行事の手伝い、お誕生会の際の出し物などに協力いただいた。

農業高校との交流については計画通り行うことができた。

②教職員の特性が生かされる運営に努め、組織の活性化を図る。

運営にあたり、分掌組織図に基づいて教職員一人ひとりが生かされるような役割を持つことで責任をもって取り組むことが出来た。また、教職員会議の課題等についてそれぞれが自分の意見を出し合い、話し合いの場を作ることで組織の活性化を図った。

③老人福祉施設の永山園、永山亭、なの花、福寿草、医療型児童発達センターの愛育センター、各デイサービスとの連携、交流を図っていく。感染症予防のため訪問出来ない場合は、園児たちの様子(歌、手遊び、体操等)をDVDにし、観てもらおうよう交流の工夫を図る。

感染症予防のため、訪問して交流することはできなかったが、園の方で子ども達が歌ったり手遊びを行っている様子のDVDを作成し、各施設に届けて見てもらうことができた。

④たいせつネット、旭川市巡回相談等を利用し、支援が必要な園児に適切な対応が行えるように努める。

感染症予防のため、たいせつネットの先生に来園していただき支援方法についてなどを学ぶことが出来なかった。

⑤教職員の危機管理意識を高めるため、全職員で定期的に見直しを行っていく。

春と秋に避難訓練を行い、火災が起きた際(保育中の火災、自由遊び中の火災)の避難行動、注意事項等を指導していった。その他、実際に消防の方に来ていただき、119番への通報訓練、初期消火訓練を行った。

また、園会議の際に教職員全員で危機管理マニュアルを見直し、危機管理の意識を高めた。

⑥園名変更等に伴い、看板、ホームページ、文書様式の修正を行う。

保護者の就労状況等を把握し、預かり保育の充実を図った。また、これからの幼稚園教育について話し合いをし、改善点、検討していく内容について全教職員で意見交換を行った。さらに、今後の幼稚園経営についても全職員で研修を深めた。

⑦スクールバスの運行経路の範囲、運行体制の見直しを図る。

スクールバスについては、冬は雪の状況によって大幅に運行時間を変更するため、常に時間、経路を見直しながら運行を行った。

⑧園支援システム(バスキャッチ)を導入し、バス運行管理、保護者へのメール連絡、園児の出欠管理等を行っていく。

園支援システム(バスキャッチ)を導入し、バスの運行管理、保護者への連絡メール、園児出欠、預かり保育申込み、指導要録等、システムを統一することにより教職員の仕事の効率化を図ることができた。

幼稚園の部、以上

令和6年度事業計画に基づく結果報告（3 旭川情報ビジネス専門学校）

1 学校組織（改組、再編等）

1-1 管理職と教職員の連携による「学校力」強化を目指す。

- ① 5年後、10年度を見据えた学校組織改革
- ② 教職員が主体的に組織のあり方を考える環境作り

①担当業務の不明確だった部分を再確認した。5月より特任教員1名を採用したため、次年度の分掌担当の準備期間として学生募集委員会と進路部の部員とした。
②昨年度同様に行うことが出来た。

2 教育課程（教育目標、カリキュラム編成等）

2-1 情報処理技術者国家試験等の合格率向上を図る指導体制・指導法の確立

- ① 学生が就職を意識した取得意義の共有と指導体制の確立
- ② ITパスポート、基本情報技術者試験および応用情報技術者試験合格者増へ指導体制の取り組み

①基本情報技術者試験の通年化に向けて、試験の実施方式、出題範囲などの変更に伴い、従来通りの内容となる秋期と変更となる春期に対応した授業展開を行った。
また、学生には春期の新方式に対応できるように、関連授業と連携して早期に説明及び対策を実施した。
②情報技術者試験対策強化として、教員2名を配置し2クラス編成としたことにより科目A試験免除者の学習効率をよくした。下位クラスでは、科目A試験を重点的に学習できる内容とし、春期の試験を目標に基礎を固めた。結果としては基本情報技術者試験に新たに7名が合格した。また、ITパスポート試験には6名が新たに合格した。

現在合格者数	1年生(38名中)	2年生(34名中)
応用情報技術者	0名	1名
基本情報技術者	7名	5名
ITパスポート	6名	4名

2-2 マイクロソフトオフィススペシャリスト試験の合格率を高める指導体制づくり

- ① 学生の合格に対する意識の高揚や指導体制の確立（合格率100%を目指す）

MOS2019に対応した授業計画に沿って授業を行った。

現在合格者数	1年生(38名中)	2年生(34名中)
Word	38名	34名
Excel	38名	34名
Power Point	未実施	34名
Access	未実施	32名
Word Expert	5名	3名
Excel Expert	4名	3名

※学生数は年度末の人数

2-3 職業観の育成や勤労意欲の高揚を重視したキャリア教育の推進

- ① 企業との積極的な連携（すでに連携している企業の他、新規連携企業との協同事業の推進）
- ② インターンシップの活用による勤労観・職業観の涵養

①1年生を対象に、外部講師を招いてキャリア教育を実施した。また、各回の講座では、企業の採用担当者に直接質問できる機会を提供した。

- ・11月「IT業界説明・就職活動の流れ、エントリーシート、面接試験対策」
- ・12月「業界研究として非IT企業を知る」
- ・1月「IT業界の職種詳細（カスタマエンジニア）」
- ・3月「IT業界の職種詳細（システムエンジニア）」

これらの取り組みにより、学生は職業観や勤労観を育むことができ、早い段階から意欲的に就職活動に取り組む姿勢が見られた。

②対象学生に合わせて就職研修の内容を見直し、必要な活動内容の明確化や過去のベストプラクティスから学ぶセミナーの実施、エントリーシート作成セミナーなどを実施した。また、就職活動の早期化に対応するため、夏休みや冬休みを利用してインターンシップやオープンカンパニーへの参加を促し、活動状況を学生間で情報共有した。

結果、学生の活動状況は昨年度と比較して、早期から意欲的に活動できている。

2-4 教育課程の大幅な見直し

- ① IT関連教科を学ぶ専門学校生にふさわしい教育課程の編成
- ② AIの進化、経済のグローバル化に対応した教育課程の編成

①授業に外部講師を活用することで、学生は理解を深めることができた。

②DMM オンライン英会話講座と「Pythonのオンラインプログラミング」講座を開設、学生の「グローバル化」とITコースでのプログラミング授業の実施が可能になった。

・デジタルリテラシーの強化、オンラインツールを活用したPythonプログラミング、プログラミングを通して問題解決能力の養成はもちろんのこと、身だしなみや言葉遣い、挨拶など毎日の学校生活の中でビジネスマナーを意識させた

2-5 企業との連携を図る教育課程の編成

- ① 職業実践専門課程を意識した企業との連携

旭川市内に拠点を置く首都圏のIT企業で活躍している者を非常勤講師として招き、IT業界で求められている人材に必要な能力の育成に力を入れた。

3 教育環境（施設・設備、工事計画等）

3-1 情報処理施設の充実

- ① 402教室PCの最新化（国の施設設備補助金を申請）

・402教室のPC刷新予定であったが、実施しなかった。次年度301教室のPC刷新を計画している。

・導入パソコンや学生のノートパソコンを対象にセキュリティ・ソフトのインストールを実施し

3-2 校舎の施設・設備の老朽化による弊害の解消

- ① 屋上防水工事の実施。
- ② 402教室床改修工事。

①屋上防水工事を実施した。

②402教室の床改修工事は、402教室のパソコン導入の延期に伴い実施を見送った。

また、校舎内全体のLANのIPアドレスの再割り当てを実施した。

3-3 最新ソフトウェアの更新（AI対応ソフトウェアやオンライン学習ソフトウェアの導入）

- ・Adobe クリエイティブクラウドを導入した。
- ・チェンジビジョン Astah を導入した。

4 研究活動(研究体制、受託研究事業等)

4-1 企業による校内研修の取り組みの実施

- ① 職業実践専門課程設置に向けた各種企業研修への参加促進
- ② 企業による校内研修会の実施促進(学生及び教員のITスキルの向上やキャリア教育等)

- ①北専各連の教員能力認定研修会に2度(各1名)派遣した。
- ②企業による校内研修会は行われなかった。

4-2 旭川イノベーションセンターとの連携

- ① 学生のイベントへの積極的な参加への奨励
- ② 旭川ICT協議会参加企業との連携強化(連携企業の拡大化)

- ①学生のイベントへの参加はなかった。
- ②昨年度企業連携授業を請け負ってくれていた会社の紹介により、今年度も企業連携授業をお

5 学生生徒支援(就職支援、奨学金関係等)

5-1 「求人情報ネットワーク」の充実と活用

- ① 同窓生関連企業との連携拡大(求人情報の充実)
- ② ホームページを活用した企業向け広報活動の充実
- ③ 各種広告媒体による本校のPR活動の充実(予算の確保が必要)

- ①同窓生が就労する企業より求人があり、内定全体の約40%を占めている。
- ②ホームページからの問い合わせが多数あった。
- ③昨年同様にPR活動を行った。広告媒体に対する追加の予算は取らなかった。

5-2 積極的な企業訪問の継続(道内、本州企業)

- ① 企業へのアプローチの強化(道内外企業訪問の重点化)と予算化
- ② 担当職員の増員と予算化

- ①企業との関係維持にはオンラインミーティングやメールを活用し、定期的な情報共有や意見交換を行った。これにより企業の最新状況を把握し、学生にとって有益な情報を提供できた。
- ②担当職員の増員を行わなかった。・一部の職員に負荷が集中しがちになっている

5-3 学生に対する就職支援

- ① 企業訪問やインターンシップの活用

1年次からオープンカンパニーやインターンシップに参加し、早期内定に至った。

5-4 就職が困難と予想される学生への就職支援の拡充

- ① スクールカウンセラー導入の検討

スクールカウンセラーの導入は行われなかった。

6 点検・評価(自己評価、第三者評価、研修等)

6-1 学校評価委員会及び教育課程編成委員会の企業委員による学校評価や教育課程評価の実施

- ① 学校評価委員会の企業員による、学校経営の改善
- ② 教育課程編成委員会の企業委員によるカリキュラムマネジメントの充実
- ③ 校内委員(校長及び教員)による学校経営や教育課程の評価の実施

- ①計画通り実施した。
- ②計画通り実施し、教育課程改善の視野を広げることができた。
- ③計画通り実施した。

7 社会活動（地域貢献、連携・協定）

7-1 学生ボランティア活動の推進（地域清掃、雪像づくり等）

ボランティア清掃、雪像制作ともに、夏季・冬季休業と試験日程の関係から中止とした。雪像制作は日程的に今後も実施しないこととした。

7-2 学生の地域イベントへの積極的な参加

今年度は実施されなかった。

7-3 高等学校への出前授業・進路講話、キャリア教育等の連携事業の推進

道内高校への職業体験学習・卒業生による進路講話及び進路講話が実施された。

高校名	日付	学年	内容	人数
天売高校	9月19日	1年	職業体験学習	6名
上川高校	10月8日	1年	職業体験学習	3名

7-4 中学生を対象とした「総合的な学習の時間」の受け入れの継続

・北専各連職業体験講座として、市内・市外あわせて10講座を実施し、合計156名の「総合的な学習の時間」体験学習の受け入れを行った。
 ・人員の配置ができず、一部受け入れをお断りした。
 ・中学生が身近に感じられるよう、プログラミング体験では注文画面やタイマー処理、デザイン体験では各校の校章を用いた壁紙画像の紹介、画像加工を中心とした講座を開講した。デザイン体験の作品は当校のウェブサーバー上にアップロードすることで、彼らが学校に戻った後でも見られるようにした。また、IT業界の仕事や魅力について講話を行った。

中学名	日付	学年	人数
明星中学校	7月18日	2年	15人
留萌市立港南中学校	9月13日	2年	8人
忠和中学校	9月25日	2年	12人
神居中学校	10月2日	2年	17人
東鷹栖中学校	10月9日	2年	20人
幌加内中学校	10月10日	2年	12人
東光中学校	10月10日	2年	20人
砂川中学校	10月23日	2年	12人
広陵中学校	10月30日	1年	20人
緑ヶ丘中学校	11月12日	2年	20人

7-5 校舎貸与を行い、高校生や地域住民の本校への理解度の向上

・高等学校演劇グループの練習会場として校舎貸与を行った。
 ・ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校へのスクーリング会場として校舎貸与を行った。1名の新入生の獲得につながった。

日時	貸与先	内容
5月7日～5月23日	劇団氷点華(市内高校生劇団)	練習場所
1月29日, 2月3, 5, 6, 7日	ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校	スクーリング

8 広報活動（学生生徒募集対策、ホームページ等）

8-1 入学者40名を確保するための広報活動の工夫・充実と予算化

- ① 外部団体・各高等学校主催進路相談会への積極的な参加
- ② オープンキャンパス参加者の入学率の向上(目標90%)
- ③ 管内の高等学校への定期的な訪問による広報活動の充実

- ① 旭川市内進路相談会を中心に参加した。
- ② ・体験入学参加者の入学率向上のため、個別相談を積極的に行った。入学対象者（高校 3 年生以上）参加者の入学率は 62%と、目標の 90%を大きく下回った。
・複数回参加学生のうち、入学対象者の入学率は 75%であった。
（その他）高校生に好まれるような雰囲気为学校イメージキャラクターを今年度もアップデートした。これを気に入ったので入学を決めたという学生もいた。
- ③ ・市内各高校および士別方面、深川方面の高校、上川高校を訪問し、募集活動を行った。
・市内各高校、上川高校等に対し指定校推薦制度を引き続き活用している。

8-2 上川管内・旭川市内高等学校との連携強化と予算化

① 旭川志峯高等学校との連携強化

旭川志峯高校で 2 回の進路講話が行われた。旭川志峯高校から 6 名の入学生を迎え入れた。

高校名	日付	学年	内容	人数
旭川志峯高校	6 月 6 日	3 年	単独ガイダンス	100 名
旭川志峯高校	1 月 17 日	1 年	単独ガイダンス	140 名

② 上川管内及び旭川市内高等学校への募集活動の積極的な取り組み

- ・今年度は、クラーク高校との高専連携授業は行われなかった。しかし、今年度は 5 名と、昨年に続き他校を上回る入学生を迎え入れた。
- ・市内各高校及び士別方面、深川方面の高校、上川高校を訪問し、募集活動を行った。
- ・市内各高校、上川高校等に対し指定校推薦制度を引き続き活用している。

8-3 学校見学会等の受け入れ事業の創意工夫

① 日常的な学校見学の受け入れ、広報、掲示物の工夫

- ・計 6 回のオープンキャンパスを開催した。
- ・印刷物、デジタルサイネージ、大画面 PC を使って告知等を展開した。巨大ポスターを作成し本校の一番大きな窓ガラスに掲示した。
- ・昨年度と比べ延べ参加人数は 5 名増加、実参加人数は 1 名減少した。

開催回	開催日	参加人数	うちリピーター人数
第 1 回	5 月 11 日	9 名	
第 2 回	6 月 15 日	11 名	1 名
第 3 回	7 月 20 日	19 名	6 名
第 4 回	8 月 24 日	20 名	9 名
第 5 回	11 月 9 日	9 名	4 名
第 6 回	3 月 15 日	13 名	1 名
合計（延べ）		81 名	21 名
合計（実人数）		60 名（うち入学対象 39 名、入学 24 名）	

② 高校生に道北唯一の IT 関連専門学校というアドバンテージの浸透

参加人数が多かった 7 月の回においては、在校生にアシスタントをしてもらい、好評であった。

③ 特色ある学校見学会の実施による参加者の増加を目指す（企業や著名な卒業生）

飲み物と菓子は配布持ち帰り。体験授業を行い、終了後は希望者を募り個別相談の時間を設け、入学についての相談を行った。

8-4 インターネットによる募集活動の展開

- ① ホームページのタイムリーな更新と内容の充実
- ② SNSを活用した広報活動の充実
- ③ インターネット関連広報サイトの活用

- ① ホームページは引き続きイラスト等を用いて作成した。
- ② SNS 広報活動への教職員の人員配置はされなかった。研修旅行では参加学生に旅行中に当番制で Instagram にて写真や報告を投稿してもらい、本校に興味のある学生が検索した際に閲覧できるようにした。
- ③ 電話、メール、HP からの資料請求への対応は迅速に行われた。

9 その他

9-1 e-sports の実施

- ① 2020 年より体育祭の代替として実施していた e-sports 大会の継続開催

学生主導により企画、運営、進行をし、全校で親睦を深めることができた。2 年生から 1 年生へ資料の引継ぎが行わる等、情報の共有や対人コミュニケーションにおいても成果が感じられた。

9-2 国内研修旅行の実施

- ① 2023 年度から実施している国内研修旅行の実施継続。
新型コロナウイルス感染症の影響と円安、航空運賃の値上げ、宿泊施設の値上げの状況から、海外研修旅行から国内研修旅行への変更。

海外研修旅行に代わり、国内研修を 2 泊 3 日の日程で実施した。東京の IT 企業訪問等を行った。スケジュール作成で、管理能力の向上とグループ内での話し合い等の重要性を学ぶ等、事前準備においても大きな成果があった。

Ⅲ. 中期事業計画

1. 2024 (令和 6) 年度

※ II の 2024 年度事業計画 (1) ~ (8) による。

2. 2025 (令和 7) 年度

(1) 教育課程について

- ① IT 教育に必要な情報機器設備・教育用ソフトウェアの見直しおよび負担料金の検討。
- ② 学習するプログラミング言語の変更などカリキュラム変更を検討。(時代に合った言語選択)
- ③ 企業や外部の教育関連団体との連携の強化。

(2) 施設設備について

- ① 情報処理機器の施設・設備の新設。
- ② ハードとしての情報処理設備以外の、ソフトとしての教育ツールの充実

3. 2026 (令和 8) 年度

- (1) 教育課程については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして改編していく。
- (2) 施設設備については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして整備を行う。

4. 2027 (令和 9) 年度

- (1) 教育課程については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして改編していく。
- (2) 施設設備については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして整備を行う。

5. 2028 (令和 10) 年度

- (1) 教育課程については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして改編していく。

- (2) 施設設備については、前年度計画により実施した成果をフィードバックして整備を行う。
- (3) 令和10年度は、全道的な生徒・学生激減期に入っていく最初の年であり、学校存続のための大胆な改革を計画している

6. 年度未定

- (1) エレベーター改修工事（2021年度見積額¥7,000,000）実施検討中。
- (2) 冷暖房機の更新を検討。リースなども視野に入れて検討。
- (3) 水道ポンプ改修工事 実施検討中。
- (4) 教室や階段、校舎壁面、床、壁などの劣化に対応する改修工事。

2025年度中にエレベーター改修工事を行うこととし、契約を行った。(¥7,920,000)

専門学校の部、以上